

“事前の備えで” 想定外にも対応せよ!

地球温暖化の進行にともない、前例のない巨大台風や集中豪雨による水害の発生リスクは年々高まっています。いつ起こるかもしれないしもの時に備えて、防災に対する意識を持つこと、日頃から水害に対する準備・対策しておくことが強く求められます。あなたの備えは万全ですか？

洪水から守ろう みんなの地域



令和2年5月1日(金)～5月31日(日)

北海道は、令和2年6月1日(月)～6月30日(火)

主催：国土交通省、内閣府、都道府県、水防管理団体(市町村等)

後援：警察庁、防衛省、総務省消防庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、一般社団法人日本新聞協会、一般社団法人日本民放放送連盟、日本赤十字社、協賛：全国水防管理団体連合会、公益社団法人日本河川協会、全国治水期成同盟会連合会、一般社団法人建設広報協会、一般社団法人全国海岸協会、公益社団法人全国防災協会、一般財団法人河川情報センター、全国建設弘済協議会

▶ 事前の備え

ハザードマップ ポータブルサイト
で「必要な情報」を知る

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

〇〇市ハザードマップ 検索



▶ 台風や大雨が近づいたら

川の防災情報
で「洪水の危険性」を知る

<https://www.river.go.jp/>



みんなの地域をみんなで守る!

水防団員募集中

人の役に立ちたいという思いや、何かやってみたいという思いが少しでもあれば、まずは気軽に住んでいる市町村に問い合わせをしてみてください。その行動が地域の人たちの助けになるかもしれません。

水防(消防)団への入団は、居住する市町村等へお問い合わせください。

岐阜市藍川水防団 小金井団員 ▶



こんな僕たちだけど、
まちを守っています。

地域に貢献しようと

水防団に入団した。

楽しい仲間ができた。

まちを守る仲間の絆に、乾杯。

水防団員 募集

入団をお考えの方、水防団について詳しく知りたい方は、
居住する市町村などにお気軽にお問い合わせください。



水防団とは

水防団は、水害から自らの地域を自ら守る組織です。

水防団は、地域の方による防災組織で、河川の氾濫や洪水等による堤防の決壊を防ぐための水防工法や地域住民の避難誘導など、人命の安全確保と被害の軽減等を目的に活動しています。(水防団を設置していない市町村では、消防団が担っています)



水防(消防)団員は年々減少しており、皆様のご協力が必要です。

現在、全国で約85万人の団員が各地で水防活動に従事していますが、その数は年々減少しており、地域の水防力の確保が難しくなっています。大きな水害が毎年のように発生している今、地域を守るため地域の皆様のチカラが必要です!



水防団の活動状況

令和元年度は、相次ぐ台風の上陸や接近などにより、日本各地で大きな水害が発生しました。

洪水時、越水や漏水などによる堤防の決壊を防ぐための水防工法や、住民の避難誘導などの水防活動を各地の水防団が実施しています。

主な水防活動



長野県長野市消防団 ゴムボートによる救出活動を実施(令和元年10月12日~15日:長野市内)



東京都日野市消防団 土のう積み工を実施(令和元年10月12日~13日:浅川右岸)



茨城県常陸太田市消防団 住民の安否確認・人命救助を実施(令和元年10月12日~14日:常陸太市内)



茨城県大洗町消防団 排水活動を実施(令和元年10月12日~13日:大洗町内)



ハザードマップで知ろう!

水防月間

令和2年5月1日~5月31日

北海道は 令和2年6月1日~6月30日

水防月間中に必ず確認しよう!

▶ 洪水時に自宅は安全?

▶ どのくらい浸水する?

▶ どこに避難する?

▶ 避難場所までの経路は安全?



市洪水ハザードマップ

情報の伝達経路

地下空間の分布

避難時の心得
・持ち物

浸水想定区域
・浸水深の明示

あなたの避難場所一覧

避難先の位置・名称

連絡先
・行政機関
・医療機関
・ライフライン管理機関

お住いの市のハザードマップを確認できます

〇〇市ハザードマップ

ハザードマップポータルサイトで「地域の浸水リスク」を知る

ハザードマップは市町村のウェブサイトのほか、「ハザードマップポータルサイト」から確認できます。洪水発生時に浸水が発生する区域については「重ねるハザードマップ」でも確認できます。

国土交通省
ハザードマップ
ポータルサイト

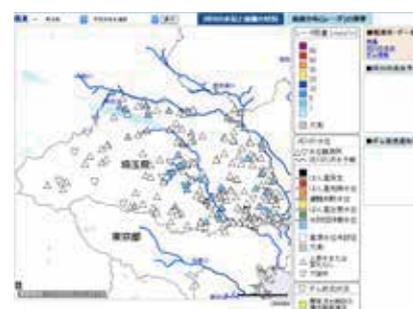
〇〇市ハザードマップ



<https://disaportal.gsi.go.jp/>

川の防災情報で「洪水の危険性」を知る

「川の防災情報」は洪水時に住民が避難行動を決断するような川の水位や雨の状況をリアルタイムで確認でき、また河川沿いに設置したCCTVカメラの映像により、川に近づかなくても状況を知ることができます。



<https://www.river.go.jp/>

